

第 18 回
を受賞し

國際超強磁場科學研究施設 金道研究室 特任助教 今城 周作

この度、大変光栄なことに第 18 回(2024 年)日本物理学会若手奨励賞(領域 7)の受賞という荣誉に恵まれました。業績の題目は「分子性電荷移動塩における非従来型超伝導の研究」で、私がこれまで注力してきた分子性結晶における超伝導の実験的研究が評価されたことに大変嬉しく思うと共に、研究を支えてくださった共同研究者の皆様にも心より感謝致します。

2023 年度の第 63 巻第 2 号や今年度の第 64 巻第 1 号で受賞報告と共に私の研究を紹介させていただいたこともあって、受賞記事らしい記事を書くネタが尽きてしまいました。また、物性研内の複数の人からは是非書いて欲しいとお願いされていた内容が一部の若手研究者を奨励(?)できるかもしれないため、若手奨励賞に因んでちょうどいい機会だと思って話を書きたいと思います。受賞内容についても興味をもって下さった方には、前述の受賞報告や物性研ニュース[1]で真面目な説明がなされていますので、そちらを参照していただければ幸いです。

さて本題ですが、**2024**年初め、私は**33**歳になった誕生日の翌日に入籍しました。独身男性研究者だった私が苦節の末、結婚に至った軌跡を紹介します。（注：結婚の推奨を目的とした記事ではありません。人生における一つの選択肢として興味がある若手研究者に参考例として読んでいただければ幸いです。）

私は大阪に生まれ、博士号取得の 27 歳まで大阪で育ち、物性研の着任で初めて関東へ移住しました。20 代後半独身での関東近郊一人暮らしは、研究だけでなく趣味にも没頭でき、幸い友人も多く恵まれ飲み会も多く楽しい日々でした。が、寝る前の暗闇の中、ふと滲み浮かぶ「このまま一人？」という考え、そして、にじり寄る孤独感を対処しなければなりません。そして追い討ちをかけるように、たまに来る両親からの連絡で「結婚は考えてるの？」という暴力的な言葉。小学生ぐらいの時のアホな自分は「大人になったら結婚して…」みたいな安易な将来設計をしてた訳ですが、当然自動で結婚できるわけがありません。相手が必要なわけですが、ただ、同年代の研究者とよく話題にあがるように、研究者は一般的に結婚に不利な面が多くあります。博士号を取得するまでに時間がかかり、学生

身分という壁によって婚活に出遅れ、また、研究室という小さく閉じたコミュニティに長時間局在するため出会いが少ない状況に置かれがちです。更には経済的にも弱く、一般的に理解されにくい職であるため、「博士課程への進学やアカデミア就職を理由に別れを切り出される」なんて話は酒の肴の一品にしかならないほどよく聞く話です。

なのに博士号を取得しても無明でアホだった私は「博士号は取れたし結婚もなにかなるやろ!」と、意味不明な自信をもっており、まずは簡単な出会いを求めようとしてました。近年の若年層の出会いはマッチングアプリが半数を超えており、例に漏れず私も登録したのですが、出会えても上手くいくなんて事はなかなかありません。事前に聞いてたプロフィールと現実が違うなんて日常茶飯事。そして「柏?え、東京大学なのに千葉住みですか…」「関西人なんですすね。何か面白いこと言って下さい」「研究…?ってことはまだ学生さんですか?」みたいな冷や水を浴びせられることもよくありません。苦行に歯を食い縛るも、そう簡単にはうまくいかないのが人の世の常。意気消沈する中、30歳を迎えた時期にコロナ禍に突入し、人との交流が難しくなって進展が途絶え、更に焦りが強くなりました。

コロナ禍が一時的に落ち着いた時期に、都内の婚活パーティというものにも手を出してみるも、何の成果も得られませんでした。その見窄らしい姿を見兼ねてか、会場の係の方から「真面目で落ち着いている今城さんには結婚相談所の方が合うと思いますよ」と勧めていただき、自分でも真面目で落ち着いていると自信を持っていたので(?)、結婚相談所に登録するに至りました。システムとしては結婚相談所もマッチングアプリと似通った部分も多くあるのですが、登録に証明書の提出が必要なために経歴・職・年齢などの詐称がないという点や、先方も結婚を前提にしているという点で非常にクリーンで現実的な出会いが可能です。費用は高めになりますが、マッチングアプリでしょうもない騙し合いに時間やお金を無駄にするよりは効率が良いと思います。

登録後も紆余曲折は色々ありながらも何人かの方と会うことができました。ざっくりとした感想としては、研究者というのは比較的真面目な職業と受け止められやすく、

結婚相手として良い印象を与える場合が多いように感じました。その中で現在の妻に会ったのですが、当然結婚を前提とした出会いであるため、価値観や生活観、気が合うなどがわかってからは非常にスムーズに事は運びました。出会って1ヶ月で交際、3ヶ月で婚約し、6ヶ月でご両親へ挨拶し、8ヶ月目には入籍する運びとなりました。入籍と同時に一緒に居を共にして半年経過した現在、(妻がどう思ってるか分かりませんが)大きな喧嘩もなく楽しい毎日を過ごしています。独身生活は他人の生活への責任がなく、自分のみの趣味・仕事に集中できて非常に楽しかったのですが、一人で約30年築いてきた価値観・生活が異なる刺激が結婚することで得られ、研究スタイルや生活リズムが変わってきました。

私の拙文で長々と紙面を汚してしまいましたが、今後は、ライフプランを考慮した研究の進め方を考えることで、より良い研究環境の構築に繋がれば幸いだと考えています。